

# 令和7年度第1回 社会福祉法人 摂津宥和会 地域連携推進会議 議事録

## 1. 日時・場所

- 日時：令和8年3月12日(木) 13:30 ~ 15:30
- 場所：摂津市立みきの路 社会適応訓練室

## 2. 当会議構成員（本日の出席者）

- 利用者代表：Y・T様(摂津市立みきの路)、M・A様(グループホーム)
- 家族代表：金森様(摂津市立みきの路)、稲村様(グループホーム)
- 地域代表：井川様(桜町自治会 副会長)
- 福祉知見者：下村様(特別養護老人ホーム せつつ桜苑 副施設長)
- 施設側：藤(摂津市立みきの路施設長)、山川(グループホーム施設長)

---

## 3. 会議の趣旨と目的の説明

地域連携推進会議は、令和7年度より障害福祉サービスの居住系サービス(入所・グループホーム)において年1回以上の開催が義務付けられた。目的は以下の通り。

- 透明性の確保：虐待防止や権利擁護の観点から、外部の目を入れた運営を行う。
- 地域との関係づくり：閉鎖的になりがちな施設運営を地域に開き、相互理解を深める。

## 4. 施設・事業概要の説明

法人と事業所理念の説明、および各事業所の現状報告を配布資料に基づき実施。

- みきの路：入所30名、通所1日平均利用者15名。平均障害支援区分は5.3と重度障害者の利用が中心。
- グループホーム：摂津・茨木市に計6カ所(定員40名)を展開。就労支援中心のホームから重度対応のホームまで、ニーズや障害特性に応じた多様な形態で運営。
- 地域活動：清掃活動、自治会行事への参加、AEDの設置・周知・貸出など、地域の一員としての活動を継続。

---

## 5. 見学の実施

- みきの路：1階(通所フロア)、2階(女性入所フロア)を見学。  
※ 3階男性入所フロアは体調不良者(発熱者)数名が静養中であり、感染対策として見学を中止。
- グループホーム「サルビア」：徒歩にて移動し、実際の生活空間(個室、共有スペース)を視察。M・A様がホームを案内された。
- その他のグループホームについては、時間の都合上、委員の希望に合わせて別日での調整とする。

---

## 6. 質疑応答・意見交換(要旨)

### 【運営理念について】

- 下村委員：運営理念にある「小さな声に耳を傾ける」ための具体的な取り組みは？
- 施設側：半年ごとの個別支援計画作成時の聞き取りに加え、日常会話や利用者の表情、仕草からも収集している。加えて意見箱の設置を行っている。また、外部の相談支援専門員や往診医、歯科医など多職種と連携し、本人からの発信を多角的に汲み取るよう努めている。

### 【個別支援計画書の策定について】

- 稲村委員：個別支援計画書策定の際に、利用者本人も策定会議に参加しているのか？(利用者代表 M・A 様にも質問された)
- 施設側：モニタリングは必ず本人に行い、可能な限り策定会議にも利用者本人の参加を促している。サービス担当者会議も同様の考えである。
- M・A 様：明確な返答は無く、ニコニコとした表情をされていた。

### 【医療連携と高齢化への対応】

- 金森委員：入所者の高齢化に伴い、病気の早期発見や医療連携が課題だと考えるが、取り組み内容は？
- 施設側：嘱託医(千里丘協立診療所)との連携を密にしている。他に精神科医師の往診も2週に1回実施し、てんかんや不眠等のケアも行っているが、精密検査や入院が必要な際の受け入れ先確保は、課題である。体調不良を意思表示できる利用者が少ないので、予防的な対応に重点を置いている。  
グループホームでも訪問歯科を導入しており、利用者には安心できる環境で治療が受けられるような配慮と、通院の負担軽減に努めている。

### 【グループホームの設備とニーズ】

- 下村委員：グループホームの居室にナースコールはあるか？
- 施設側：一般住宅を賃貸で利用しているため設置はない。そのため、重度の方のニーズに応えるべく、ナースコールや消防設備を整えたオーダーメイド型のホームを新設するなど対応が必要だと考えている。

### 【地域との交流】

- 井川委員：みきの路が開設する時(平成14年)に見学させてもらって以来、入所フロアにも入らせていただいた。利用者の皆さんが町内を散歩されている姿をよく見かける。地域イベントや活動へも参加してもらっており、ありがたく思う。
- 施設側：桜苑の喫茶事業にも利用者は楽しんで参加されている。近隣中学校の職場

体験受け入れや、地域のイベントに参加し、障害のある方々への理解の啓発や共生社会の一助となるように、地域とのつながりを継続させたい。

#### 【短期入所の稼働率と入所待機者について】

- 下村委員：短期入所の稼働率と入所者の選定方法について。
- 施設側：短期入所は5床のうち、毎日概ね3～4床の利用がある。入所者待機者は男女合わせて120名程。男女比は男性7:女性3の割合。入所に空きが出れば、入所選定会議を開き、待機者リストの中から緊急度を最優先に、当施設のサービスにマッチする方を選定している。

#### 【外出支援について】

- 井川委員：外出等の支援はどのようにされているのか？
- 施設側：グループホーム利用者の外出支援は、ほとんどの利用者がガイドヘルパーを利用している。みきの路(施設入所)の利用者は制度上、基本的には利用が出来ないが、生活の質の向上と、将来の地域での生活を見据えて、障害福祉課と相談のうえ、一部の利用者には支給決定していただいている。Y・T様もガイドヘルパーを利用して外出されている。
- Y・T様：3月27日にお出かけします。電車に乗ってカラオケに行きます。

#### 【各委員から利用者代表委員への質問】

- 各委員：みきの路やグループホームでの生活は楽しいですか？
- M・A様：ニコニコとした表情をされている。
- Y・T様：楽しいですよ。
- 各委員：逆に困っていることや、してほしいこと等の要望はありませんか？
- M・A様、Y・T様：無いです。

---

## 7. 閉会

本日の議事録は法人ホームページでの公表(個人情報に配慮した形式)する事について、全員の承認を得て閉会した。

閉会后、利用者代表委員 M・A 様より、「すごく緊張した」との意見があった。閉会后にはたくさんしゃべっておられた姿を見ると、次年度以降の会議の進行は、利用者代表委員がリラックスして参加できる配慮を課題として引き継ぐ。

以上

記録:藤